

ペットボトル®を通し、総合学習の展開と姨捨棚田のシンボル作り。

取組に至る背景・事業の目的

「さらしな」は古くから名月の里として、歌人・俳人が月をめでていた。姨捨の棚田に月が映える「田毎の月」は、江戸時代に流行した歌川広重の浮世絵により「さらしな おぼすて」の代名詞となった。

日本遺産に認定されたこの素晴らしい地域を再認識し、次世代へ体験とともに引継ぎ、さらに多くの方々に姨捨棚田を来訪するきっかけとなることを目指し、活動を実施する。

事業内容

小学校の総合学習時間にクリーンエネルギー学習教材「ペットボトル®」の作成と環境学習を行うとともに、日本遺産となった姨捨棚田に関する郷土学習を実施し、姨捨棚田へ「ペットボトル®」を設置することで田毎の月を表現する。

1. 環境教育（リモート形式）・工作教室

リモート形式により環境学習を実施。その後、昨年工作教室を体験した中学生が講師となり、小学校高学年に指導。（リレー式授業）

環境教室・工作教室参加者：154名（地元小学校4～6年生）

環境教室講師：サンケン電気（株）

工作教室講師：25名（地元中学校2年生）

2. 工作教室 地元小学校で実施

工作教室を体験した高学年が低学年の指導を行うリレー式授業を実施。

参加者：152名（1～3年生）

3. ペットボトル®設置イベント 11月に姨捨棚田で実施

地元小学校3校と一般参加者によるイベント 計4回開催

参加者：延べ179人（地元小中高校生、一般）

ペットボトル®設置数：計3,800個

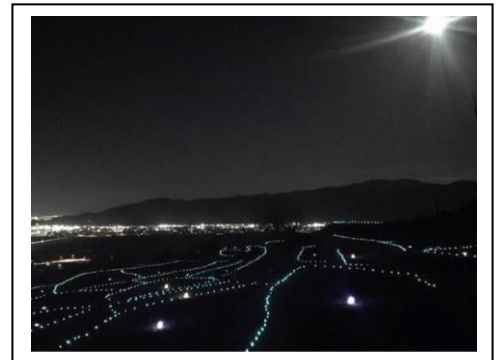
4. 田毎の月を表現（姨捨棚田をライトアップ）

R3.11.20からR4.3.19までの期間、ペットボトル®を設置。

撤収はボランティアを募集して実施。



【ペットボトル®】



【ペットボトル®で「田毎の月」を再現】

事業効果

- ・環境教育では、ペットボトル®の構成要素であるソーラー発電を題材に学習を行い、地球温暖化を防ぐ取組や郷土の自然環境を守る意識の向上などが図られた。
- ・工作教室では、生徒児童自らが教える側になることで、教える側も、教わる側もより大きな関心、好奇心を呼び、多大な教育効果があった。
- ・自らが作ったペットボトル®を設置し田毎の月を表現することで、地域愛を育むとともに姨捨棚田の新たな魅力の発掘につながった。
- ・新聞等メディアに取り上げられたことによる関心の高まりなど、地域活性化へもつながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・地域全体とした取組となるようにチラシやポスターによる周知、さらに地元企業90社から協賛金を集めることで、継続的で自立的な体制を構築することができた。
- ・小中学校からの要望もあり、次年度以降も継続して総合学習を実施していく。
- ・冬場の姨捨棚田は積雪があることから、多くの方々に来訪してもらうためには情報発信に加え、ペットボトル®の設置場所の検討も必要である。県道の拡幅工事が完成した際には、県道沿いの棚田にも設置していくことを検討していく。

【選定のポイント】

ペットボトル®による姨捨棚田の新たな魅力の発掘、環境意識の向上、地域愛の醸成や地域内外への情報発信による地域活性化に大いに寄与した。また、地域住民、教育機関や地元企業を巻き込み地域全体としての取組、地元小中学校と連携した継続的な学習機会の確保や地元企業から活動費を集めることなど、自立的・継続的な実施に向け、モデル性が高い事業となった。

団体名	「信州さらしな田毎の月」プロジェクト 実行委員会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	事務局 鹿田 敦己	事業費	3,605,582円
メールアドレス	shikathan207@gmail.com	支援金額	2,851,000円